

小学校中学年の部・あらえびす賞

明日を信じて 自分を信じて

佐比内小学校 四年 佐々木 愛理

わたしは「明日を信じて」の歌が好きです。どんな人でも、明日を信じてがんばっていく、少しの勇気を持てば、ゆめは必ずかなうというこの歌がすごく好きです。

わたしは、この歌を悲しい時や、がんばりたい時、心を落ち着かせたい時に好きです。自分の心をやわらげて、毎日を進ませてくれそうです。

わたしが、特に気に入っている歌詞が三つあります。

一つ目は、「両手で風を感じた」のところですか。すごくふんわりとした歌詞で優しい感じになります。二つ目は、「これから全てが始まる、新しいわたしに」のところですか。本番はこれからなんだ、勝負はここから始まるということを感じさせてくれたからです。三つ目は、「人には、大切なものや守るものがある」のところですか。この歌詞は、守るものを大切にしていこうという意味だけでなく守るもの、大切なものを伝えていくというような意味もあるのではないかとこの気持ちにさせられました。

この「明日を信じて」は、紫波町音楽祭で発表した歌です。佐比内小学校は、三、四、五年生が学校の代表として出場しました。

わたしの学級、三、四年生は、一学期から練習をしてきました。はじめに歌った時の歌声は、どなり声の人がほとんどでした。みんな、歌のイメージと関係なく、他の人に負けないように歌っていたので、どなり声になってしまいました。でも、練習を重ねていくうちに、のどのおくを開けて歌うようになり、わたしもみんなもきれいな声になりました。わたしだけでなく、みんながこの「明日を信じて」の世界に入って、両手で風を感じるようにふんわりとした、優しい感じで歌うようになったからです。二学期になり、五年生もいっしょに練習しました。五年生は、最初からきれいな歌声ですごいなあと思いました。

わたしたちは「明日を信じて」の歌を練習してきました。この練習を通して、わたしたちはこんな力がつきました。「団結力」「表現力」「発声力」の三つです。

「団結力」は一人ではなく、みんなで歌ってきたから、「明日を信じて」を伝えることができました。

「表現力」は、歌詞の意味を考えて、伝えようとする力がつきました。

「発声力」は、伝えたいからといって、どなるのではなく、のどを開けて歌うようになりました。

この三つの力をレベルを下げることなく、これからもがんばっていききたいと思います。明日を信じて、少しの勇気を持って、ゆめをかなえていきたいと思っています。

曲名 「明日を信じて」

作詞・作曲 天野 滋